

# 歯を磨けば命が輝く 歯原性菌血症の怖い話



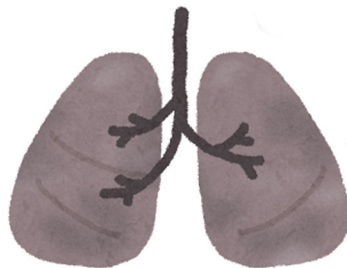
花田 信弘（はなだ のぶひろ）  
福岡県出身 歯学博士

鶴見大学 歯学部 探索歯学講座 主任教授

国立感染症研究所 口腔科学部長を経て現職。

全国各地の大学歯学部の講師を務める。

## 第9話 口の中のエイリアンが肺へ行く



肺炎はがん、心疾患に次いで日本人の死因の第3位です。2014年のデータでは日本人の死因の10%を肺炎が占めています。肺炎による死亡者の95%は75歳以上の高齢者です。肺炎の原因として口の中のエイリアンたちが悪さをしています。口腔内細菌が肺炎に関与するかどうかを調べたルーマニアの研究があります。入院中の慢性肺炎の患者34名と健常者30名の口腔内細菌を比較すると入院中の慢性肺炎の患者の口腔には肺炎関連細菌（エイリアン）がたくさんいることがわかりました。では、口の中のエイリアンはどのような経路で肺に到達するのでしょうか。一つは誤嚥です。誤嚥性肺炎とは、口腔内の唾液や細菌が誤って気道に入り込むことで起きる肺炎です。誤嚥は寝ているときに起こりやすく、誤嚥を起こしても自覚症状がないことがあります。これを不顕性誤嚥と言います。毎日不顕性誤嚥が繰り返されると肺炎になります。食前、食後の口腔ケアと食事時の誤嚥防止が大切です。口腔ケアにより、肺炎を予防することが日本各地で報告され、介護予防という視点からも注目されています。

もう一つの経路は虫歯や歯周病による歯原性菌血症です。虫歯の穴の中にある細菌や歯周組織の細菌が血液を通して肺に到達します。それに符合して肺炎の患者さんは肺炎でない人よりも虫歯や歯周病になっている割合が高いことが報告されています。多くの高齢者の肺は誤嚥と菌血症の両方から口の中のエイリアンに攻め込まれて炎症を起こすのです。熊本県では平成28年熊本地震で被災した方の口腔ケアに着目して、高齢者を誤嚥性肺炎から守る努力が続けられています。口腔ケアが命を守ることは、東日本大震災でも話題になりました。肺に到達した口の中のエイリアンは肺炎を起こすだけではなく、肺静脈から心臓に入り、全身の臓器に播種（はしゅ）されていきます。高齢者施設で口腔ケアを実施した人たちと口腔ケアを実施しなかった人たちを比べると、肺炎の発生率はおよそ40%減少したと報告されています。口腔ケアの普及啓発で被災地の高齢者の健康を守りましょう。



 鶴見大学歯学部探索歯学講座

〒230-8501 神奈川県横浜市鶴見区鶴見2-1-3

TEL.045-581-1001

<http://dent.tsurumi-u.ac.jp/>

 一般社団法人 口腔除菌協会

東京都港区六本木7-17-10

TEL.0120-59-6480

<http://www.kenko-station.jp>